

# 南日詰大銀 I 遺跡

— 第 1 次発掘調査報告書 —

令和 4 年 3 月  
紫波町教育委員会



# 例 言

1 本書は、岩手県紫波郡紫波町南日詰字大銀及び字小路口地内に所在する、南日詰大銀Ⅰ遺跡第1次調査についての記録保存を目的とした緊急発掘調査に関する報告書である。

## 2 調査概要

調査事由 個人住宅新築工事に伴う緊急発掘調査  
調査期間 令和2年12月11日～令和2年12月22日  
調査面積 79.2㎡

3 調査主体 紫波町教育委員会 教育長 佐美 淳  
調査組織 紫波町教育委員会事務局 教育部長 八重嶋 靖  
生涯学習課 課長 須川 範一 (兼学習推進室長)  
主任 岩館 岳  
主任 上方 雄理  
主任文化財専門員 鈴木 賢治

※調査担当・本書の執筆及び編集は、鈴木 賢治が行った。

- 4 本報告書の作成にあたっては、下記の方々に御指導・御協力いただいた。(五十音順・敬称略)  
岩手県教育委員会生涯学習文化課、羽柴直人〔(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〕、盛岡遺跡の学び館
- 5 遺構の平面実測図・座標測量及び、調査区全景(ドローンによる空撮)は(株)グランプラスに委託した。
- 6 土層図は、堆積の仕方を重視し線の太さを使い分けた。土層層相の色相観察は、小山・竹原著「新版標準土色帖」日本色研事業(株)を使用した。
- 7 本書に記載した地形図は、国土地理院発行の5万分の1日詰を使用した。
- 8 各遺構名と遺構記号は次の通り。  
掘立柱建物跡—SB、土坑跡—SK、溝跡—SD、柱穴—P
- 9 座標数値  
基-1 X=-51782.573 Y=28916.957 基-2 X=-51773.042 Y=28927.705
- 10 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、紫波町教育委員会において保管している。
- 11 現場作業及び室内整理作業は、次の方々に参加・協力して頂いた。(五十音順 敬称略)  
一戸 幹矢、川又 達夫、小松 愛子、佐藤 ヒデ子、佐藤 房子、吉田 良二

# 目 次

例 言  
目 次  
挿図目次

表 目 次  
写 真 図 版  
抄 録

<b>1 遺跡の環境</b> .....	1
(1) 位 置 .....	1
(2) 地形と地質 .....	1
(3) 周辺の遺跡 .....	2
<b>2 調査の概要</b> .....	4
(1) 調査に至る経過 .....	4
(2) 調査の概要 .....	4
<b>3 調査の成果</b> .....	5
(1) 検出遺構 .....	5
(2) 出土遺物 .....	14
<b>4 まとめ</b> .....	19

# 挿 図 目 次

第 1 図 南日詰大銀 I 遺跡 位置図 (1:50,000) .....	1
第 2 図 周辺の主な遺跡位置図 .....	3
第 3 図 第 1 次調査 遺構配置図 (1:100) .....	4
第 4 図 SB-01 掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:60・1:50) .....	6
第 5 図 SB-02 掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:60・1:50) .....	7
第 6 図 SB-03 掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:60・1:50) .....	7
第 7 図 SD-01・SD-02 溝跡 平面図・断面図 (1:50) .....	9
第 8 図 SK-01～SK-04 土坑跡 平面図・断面図 (1:50) .....	10
第 9 図 P1～P59 柱穴 断面図 (1:50) .....	13
第 10 図 出土遺物① (1:3) .....	16
第 11 図 出土遺物② (1:3) .....	17
第 12 図 出土遺物③ (1:3 古銭 1:2) .....	18

## 表 目 次

表 1	周辺の遺跡一覧表	2
表 2	SD-01・SD-02 SK-01～SK-04 注記一覧表	11
表 3	P1～P59 柱穴 規模一覧表	12
表 4	出土遺物一覧表①	14
表 5	出土遺物一覧表②	15

## 写 真 図 版

第 1 図版	南日詰大銀 I 遺跡 調査区空撮
第 2 図版	調査区全景
第 3 図版	SD-01・SD-02 溝跡 SK-01 土坑跡
第 4 図版	SK-02・SK-03 土坑跡
第 5 図版	出土遺物①
第 6 図版	出土遺物②
第 7 図版	出土遺物③



# 1 遺跡の環境

## (1) 位置

本遺跡は、JR 東北本線日詰駅の南東約 1km、岩手県紫波郡紫波町南日詰字大銀及び字小路口地内の中位花巻段丘相当面上に位置する。遺跡範囲は南北約 90m、東西約 88m と推定される。

## (2) 地形と地質

本遺跡の東側約 0.4km には、紫波町の中央を縦断するように北上川が南流する。町内における平地は、西側一帯は奥羽山脈から流れ出て北上川に注ぐ滝名川・大坪川・五内川等の中小河川群によって、広く扇状地や氾濫低地が形成されており、そこに顕著に段丘面が形成されている。また、北上川の東部においては、北上山地の丘陵郡との間に狭隘な段丘が形成されるのみである。これら北上川中流域西側の扇状地性段丘は、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘と大きく三分類されるが、紫波町内では相当するものとして、石鳥谷段丘・二枚橋段丘（花巻段丘相当）・都南段丘と命名された段丘群が知られている。



第 1 図 南日詰大銀 I 遺跡 位置図 (1 : 50,000)

### (3) 周辺の遺跡

当遺跡の北側に北日詰下東ノ坊遺跡、東側に南日詰大銀Ⅱ遺跡、南側に南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡、西側に比爪館遺跡などが所在する。また、紫波町には県指定史跡である川原毛瓦窯跡・船久保洞窟、町指定史跡である高水寺城跡、陣ヶ岡陣営跡など貴重な遺跡が多く存在する。

番号	遺構名	所在地	種別	遺構・遺物
1	桜町下野沢	桜町字下野沢	散布地	土師器
2	日詰下野沢	日詰字下野沢	散布地	—
3	日詰西Ⅱ	日詰西5丁目	散布地	掘立柱建物跡、溝跡、土坑跡
4	西裏	日詰字牡丹野	散布地	土師器
5	桜町中桜Ⅰ	桜町字中桜	散布地	縄文土器、石器、土師器
6	日詰牡丹野	日詰字中桜	散布地	土師器
7	日詰西	日詰西4丁目	散布地	竪穴建物跡、溝跡、土師器
8	平沢松田	平沢字松田	散布地	土師器
9	平沢松田Ⅲ	桜町字中桜	散布地	土師器、須恵器
10	田頭	桜町字田頭	散布地	土師器、須恵器
11	田頭Ⅱ	桜町字田頭	散布地	土師器、陶器
12	桜町中屋敷	桜町字中屋敷	散布地	竪穴建物跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑跡
13	北日詰牡丹野	北日詰字牡丹野	散布地	縄文土器
14	桜町田頭	桜町字高木	散布地	土師器、須恵器
15	星山館	星山字間野村	城館跡	郭、空堀
16	才土地	桜町字才土地	集落跡	竪穴住居跡、掘立柱建物跡 土師器、須恵器
17	北日詰下藪	北日詰字下藪	散布地	土師器
18	北日詰外谷地Ⅱ	北日詰字外谷地	散布地	縄文土器、石器、土師器
19	大日堂	北日詰字大日堂	集落跡	かわらけ
20	北日詰城内Ⅱ	北日詰字城内	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器
21	北日詰外谷地Ⅳ	北日詰字外谷地	散布地	石器
22	北日詰東ノ坊Ⅳ	北日詰字東ノ坊	散布地	溝跡
23	北日詰東ノ坊Ⅰ	北日詰字東ノ坊	散布地	土師器、須恵器、かわらけ
24	北日詰字東ノ坊Ⅱ	北日詰字東ノ坊、字下東ノ坊	散布地	土師器、かわらけ
25	北日詰東ノ坊Ⅲ	北日詰字東ノ坊	散布地	かわらけ
26	北条館	北日詰字城内	城館跡	土師器
27	北日詰字外谷地Ⅲ	北日詰字外谷地	散布地	石器
28	北日詰字外谷地Ⅴ	北日詰字外谷地	散布地	土師器、陶器
29	北日詰八卦	北日詰字八卦	散布地	土師器、須恵器
30	比爪館	南日詰字箱清水	城館跡	土師器、須恵器、かわらけ、陶磁器
31	北日詰下東ノ坊	北日詰字下東ノ坊	散布地	土師器、陶磁器
32	北日詰城内Ⅰ	北日詰字城内	散布地	土師器、須恵器
33	南日詰大銀Ⅱ	北日詰字城内、南日詰字大銀	散布地	土師器、須恵器
34	五郎沼	南日詰字箱清水	散布地	縄文土器、かわらけ
35	南日詰小路口Ⅱ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
36	南日詰小路口Ⅲ	南日詰字宮崎	散布地	土師器
37	南日詰小路口Ⅰ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
38	南日詰長根Ⅱ	南日詰字長根	散布地	縄文土器、石器、土師器
39	南日詰川原	南日詰字川原	散布地	土師器
40	南日詰蔭沼Ⅰ	南日詰字蔭沼	散布地	土師器
41	伝蛇塚	南日詰字箱清水	経塚	珠州系壺
42	南日詰田中Ⅰ	南日詰字田中	散布地	須恵器
43	南日詰田中Ⅱ	南日詰字甘木	散布地	土師器、須恵器

表1 周辺の遺跡一覧表





第2図 周辺の主な遺跡位置図

## 2 調査の概要

### (1) 調査に至る経過

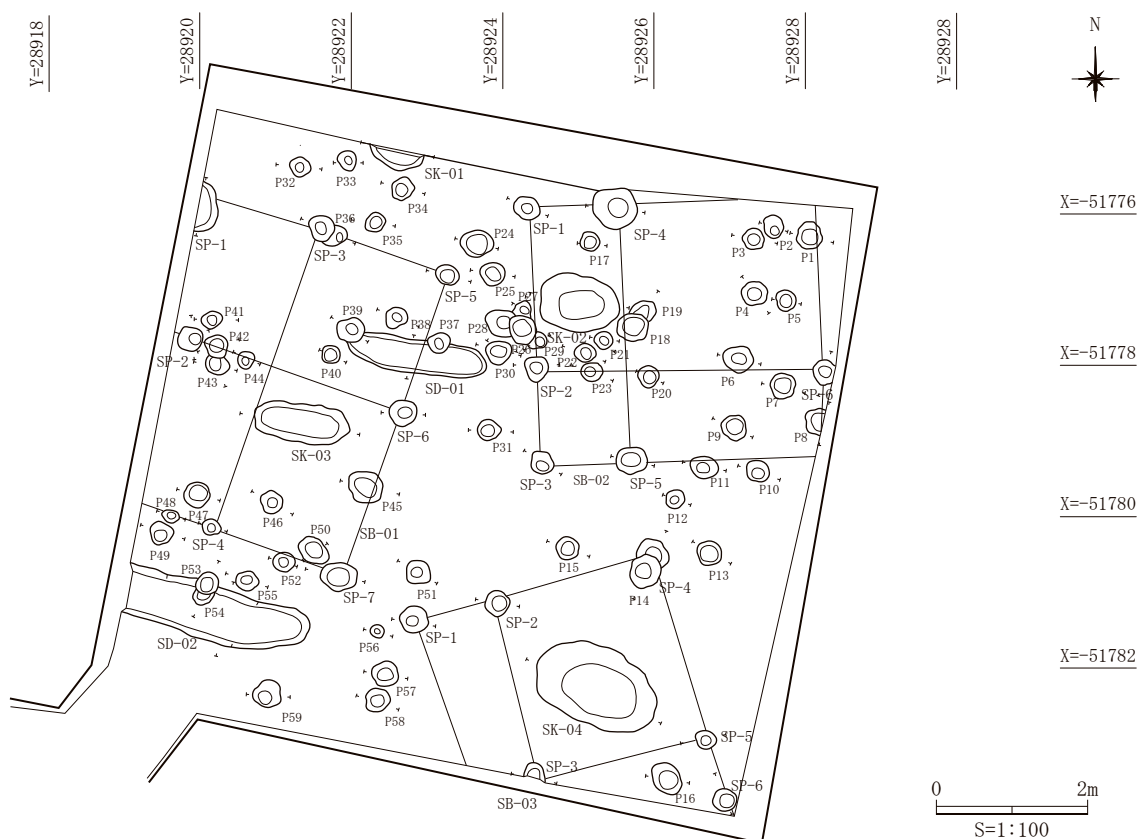
令和2年9月、調査地における個人住宅新築計画事業に係る協議があり、周知の埋蔵文化財包蔵地「南日詰大銀Ⅰ遺跡」に該当すること、近隣遺跡での調査結果から事業予定地には埋蔵文化財が包含されることが予測される旨回答した。

その後、事業者から試掘調査の依頼があり、同年12月7日に重機による有無確認調査を実施した。その結果、土坑跡、溝跡、柱穴状遺構が検出され、かわらけ、国産陶器等が出土した。工事实施により埋蔵文化財に影響を与えることが見込まれることから、事業者へ新築工事实施の際は記録保存調査を要する旨回答した。

事業者から文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出の提出があり、岩手県教育委員会へ進達したところ、岩手県教育委員会から工事前に発掘調査を実施するよう事業者へ通知があった。事業者と調整の上、令和2年12月11日から記録保存調査に着手し、12月22日に現地調査を完了した。

### (2) 調査の概要

位置	国道4号から東に約160mの地点で、範囲は南北8.7m、東西9.1mを調査した。
検出遺構	掘立柱建物跡、土坑跡、溝跡、柱穴
出土遺物	かわらけ、土師質土器、土師器 坏・甕、須恵器 坏・甕、国産陶器、その他



第3図 第1次調査遺構配置図 (1:100)

### 3 調査の成果

#### (1) 検出遺構

##### SB-01 掘立柱建物跡（第4図）

位 置 調査区西側

平面形 桁行2間、梁間2間（長方形）

重複関係 P-36 を切る

規 模 南北2間4.2m（14尺）、東西2間3.39m（11尺3寸）

棟方向 N18° E

埋 土 自然堆積。黒褐色土～明黄褐色土を主体とする。

柱間寸法 桁行 SP-1・SP-2間1.78m、SP-3・SP-4間4.28m、SP-5・SP-6間1.91m、SP-6・SP-7間2.31m、  
梁間 SP-1・SP-3間1.61m、SP-3・SP-5間1.76m、SP-2・SP-6間2.93m、SP-4・SP-7間1.78m  
をはかる。

柱 穴 各柱穴の深さは次の通りである。

SP-1 0.49m、SP-2 0.48m、SP-3 0.17m、SP-4 0.19m、SP-5 0.11m、SP-6 0.18m、SP-7 0.15m  
をはかる。

出土遺物 かわらけ

##### SB-02 掘立柱建物跡（第5図）

位 置 調査区北東

平面形 桁行1間、梁間1間（長方形）。西側・南側に庇または縁が付く。

重複関係 なし

規 模 南北1間2.2m（7尺4寸）、東西1間2.5m（8尺4寸）

棟方向 N2° E

埋 土 自然堆積。黒褐色土～明黄褐色土を主体とする。

柱間寸法 桁行 SP-1・SP-4間1.21m、SP-2・SP-6間3.85m、SP-3・SP-5間1.22m、梁間 SP-1・SP-2間2.14m、  
SP-2・SP-3間1.34m、SP-4・SP-5間3.36mをはかる。

柱 穴 各柱穴の深さは次の通りである。

SP-1 0.30m、SP-2 0.28m、SP-3 0.30m、SP-4 0.28m、SP-5 0.12m、SP-6 0.23mをはかる。

出土遺物 かわらけ

##### SB-03 掘立柱建物跡（第6図）

位 置 調査区南東

平面形 桁行1間、梁間1間（長方形）。西側・南側に庇または縁が付く。

重複関係 P14 に切られる

規 模 南北2間 2.49m (8尺3寸)、東西2間 2.25m (7尺3寸)

棟 方 向 N20° E

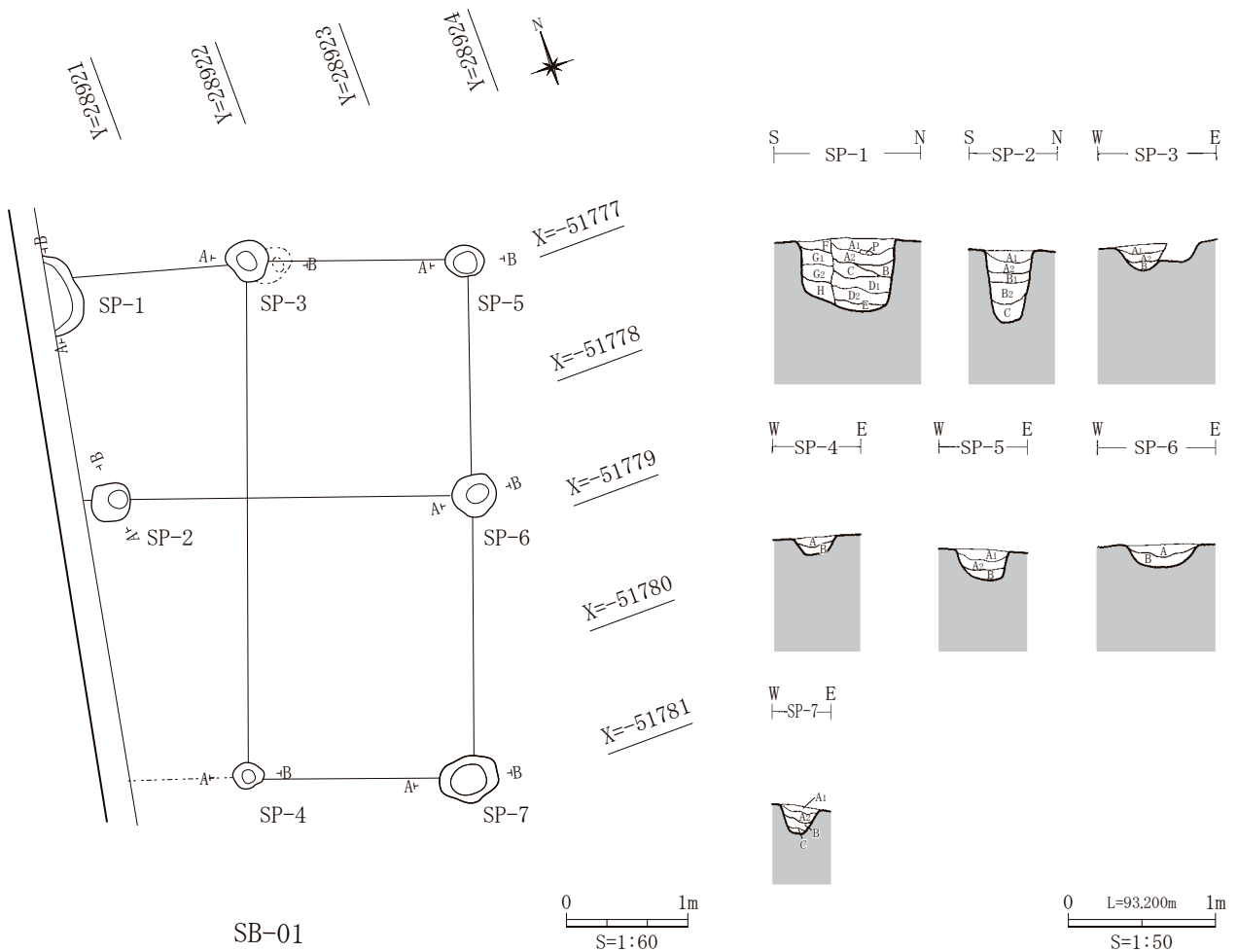
埋 土 自然堆積。黒褐色土～明黄褐色土を主体とする。

柱間寸法 桁行間 SP-2・SP-3間 2.289m、SP-4・SP-5間 2.54m、SP-5・SP-6間 0.86m、梁間 SP-1・SP-2間 1.14m、SP-2・SP-4間 2.18m、SP-3・SP-5間 2.35m をはかる。

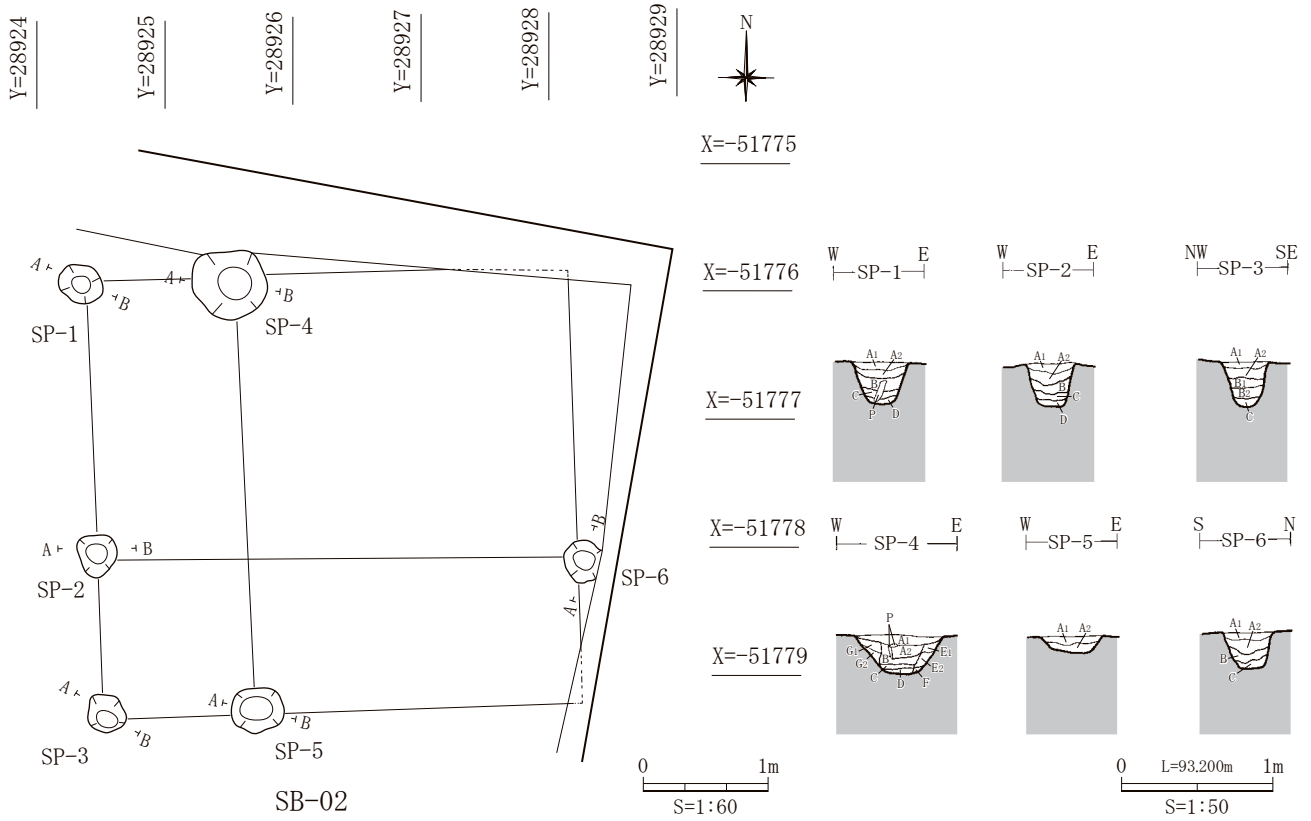
柱 穴 各柱穴の深さは次の通りである。

SP-1 0.18m、SP-2 0.45m、SP-3 0.17m、SP-4 0.42m、SP-5 0.12m、SP-6 0.22m をはかる。

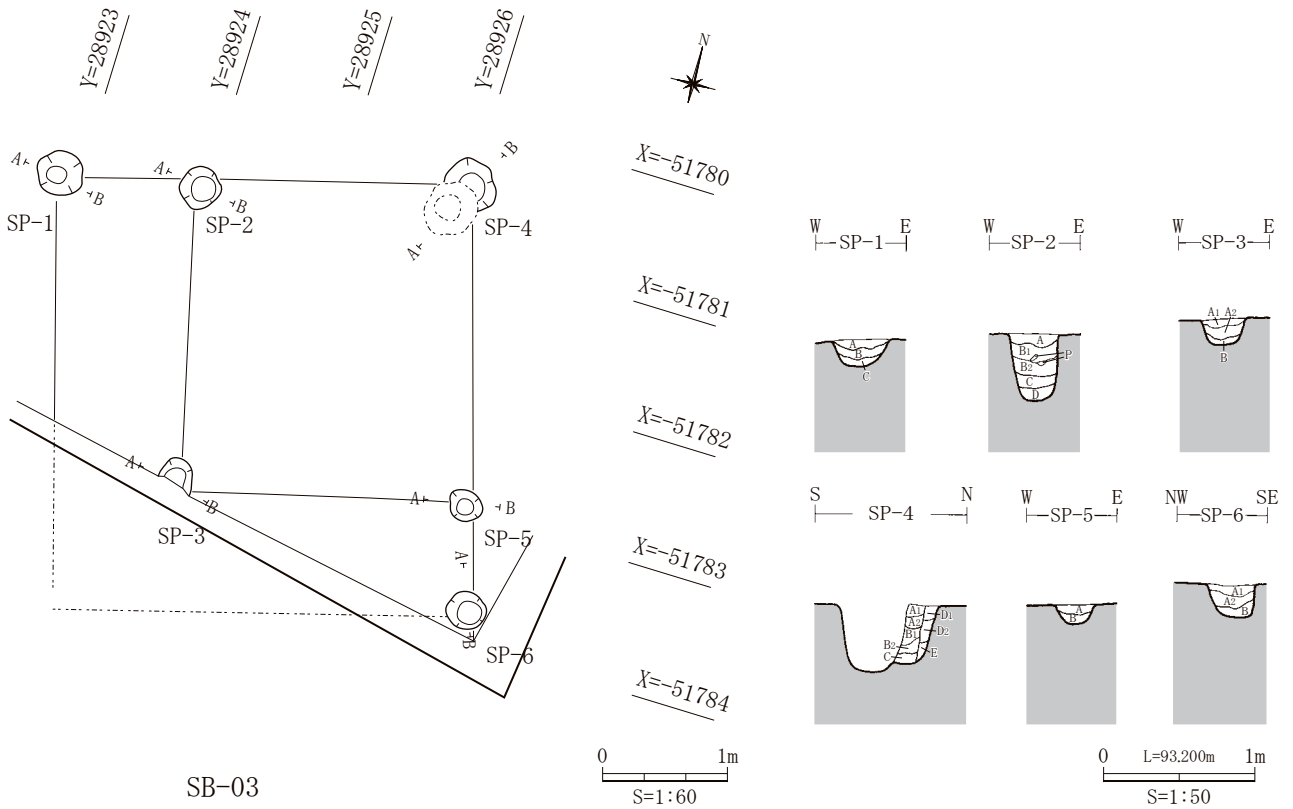
出土遺物 かわらけ



第4図 SB-01 掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:60・1:50)



第5图 SB-02 掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:60・1:50)



第6图 SB-03 掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:60・1:50)

#### SD-01 溝跡 (第7図)

位 置 調査区中央付近 平面形 浅い皿状 重複関係 P37・P39 に切られる  
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層  
規 模 全長 1.87m 以上、幅上端 0.45m・幅下端 0.34m、深さは検出面から 0.12m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層～B 層に大別する。A 層は黒色土、B 層は暗褐色土を主体とする。  
壁の状況 緩やかに外傾して立ち上がる。  
出土遺物 かわらけ

#### SD-02 溝跡 (第7図)

位 置 調査区南西側 平面形 幅広 U 字形 重複関係 P53 に切られる  
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層  
規 模 全長 2.44m 以上、幅上端 0.73m・幅下端 0.62m、深さは検出面から 0.35m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層～C 層に大別し、A 層は 2 層に細分する。A 層は暗褐色土、B 層は黒褐色土、  
C 層は明黄褐色土を主体とする。  
壁の状況 左側は、緩やかに外傾し、右側は、ほぼ垂直に立ち上がる。  
出土遺物 かわらけ

#### SK-01 土坑跡 (第8図)

位 置 調査区北側 平面形 不整円形 重複関係 なし  
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層  
規 模 上端 0.27m 以上～0.74m、下端 0.16m 以上～0.58m、深さは検出面から 0.16m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層～D 層に大別する。A 層は暗褐色土、B 層は黒褐色土、C 層は明黄褐色土、  
D 層は褐色土を主体とする。  
壁の状況 ほぼ垂直に立ち上がる。  
出土遺物 かわらけ

#### SK-02 土坑跡 (第8図)

位 置 調査区北東側 平面形 不整楕円形 重複関係 なし  
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層  
規 模 上端 0.75m～1.05m、下端 0.38m～0.61m、深さは検出面から 0.26m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層～B 層に大別し、A 層は 2 層に細分する。A 層は暗褐色土、B 層は黒褐色土を  
主体とする。  
壁の状況 ほぼ垂直に立ち上がる。  
出土遺物 かわらけ

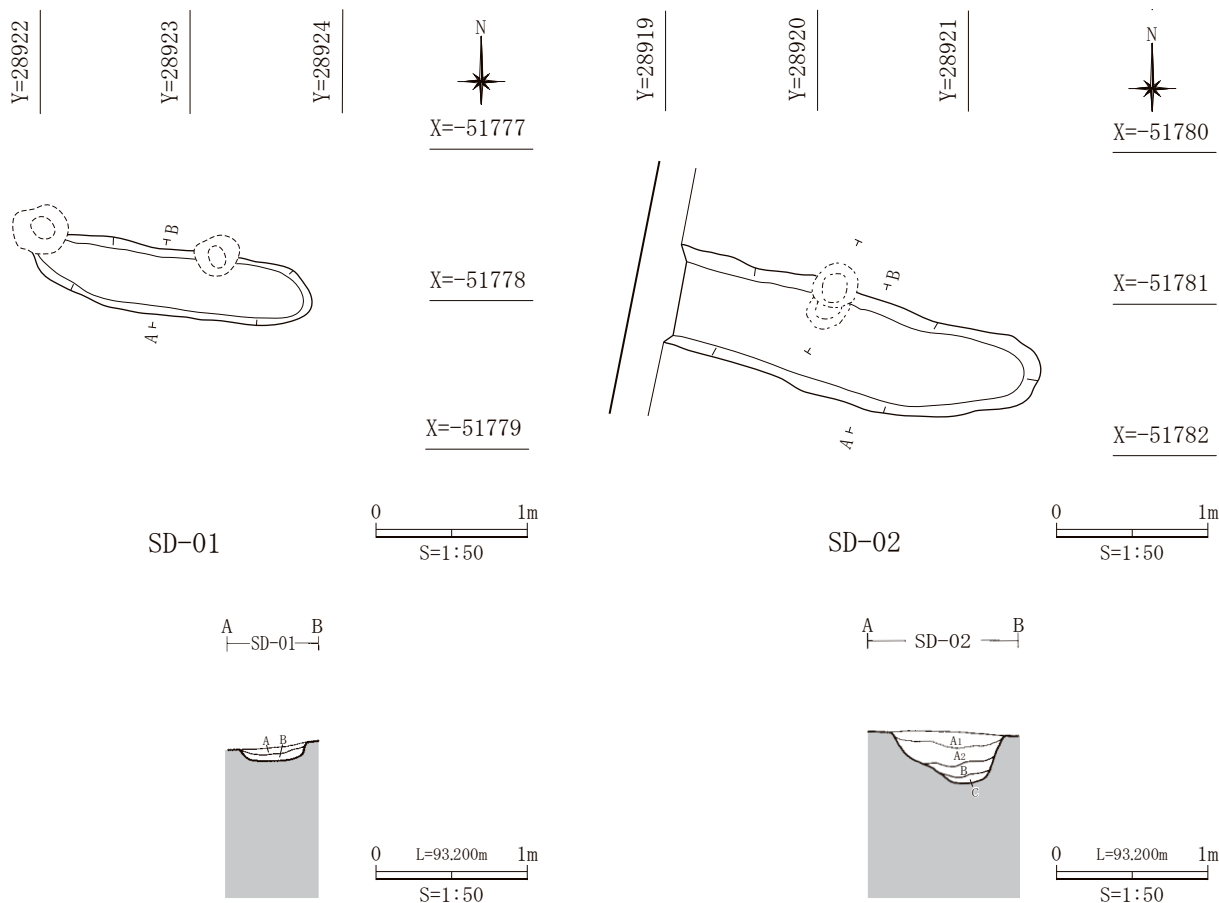
#### SK-03 土坑跡 (第8図)

位 置 調査区西側 平面形 不整楕円形 重複関係 なし  
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層

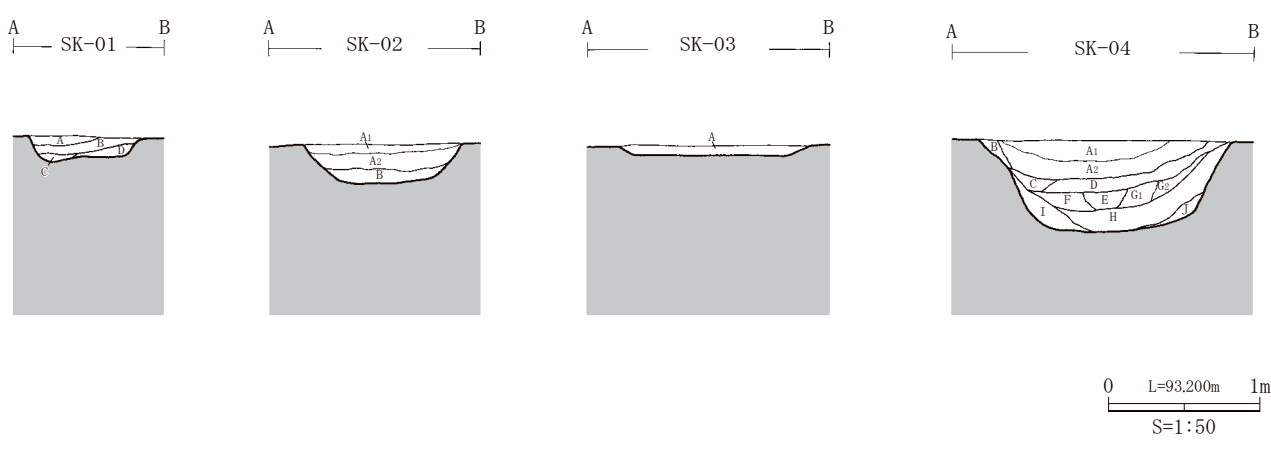
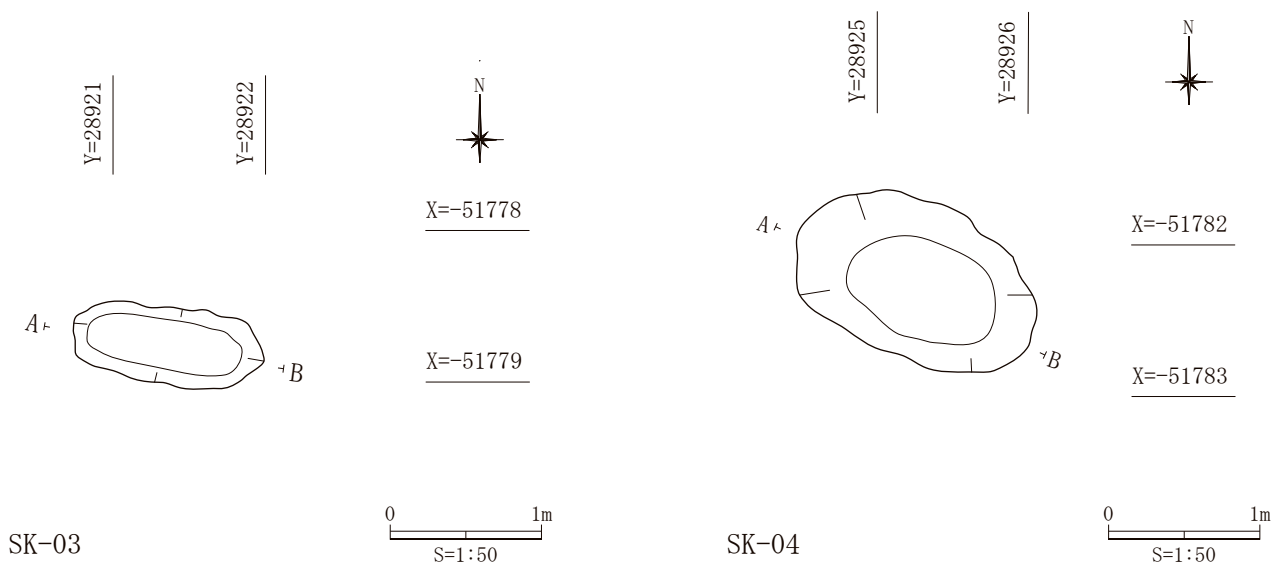
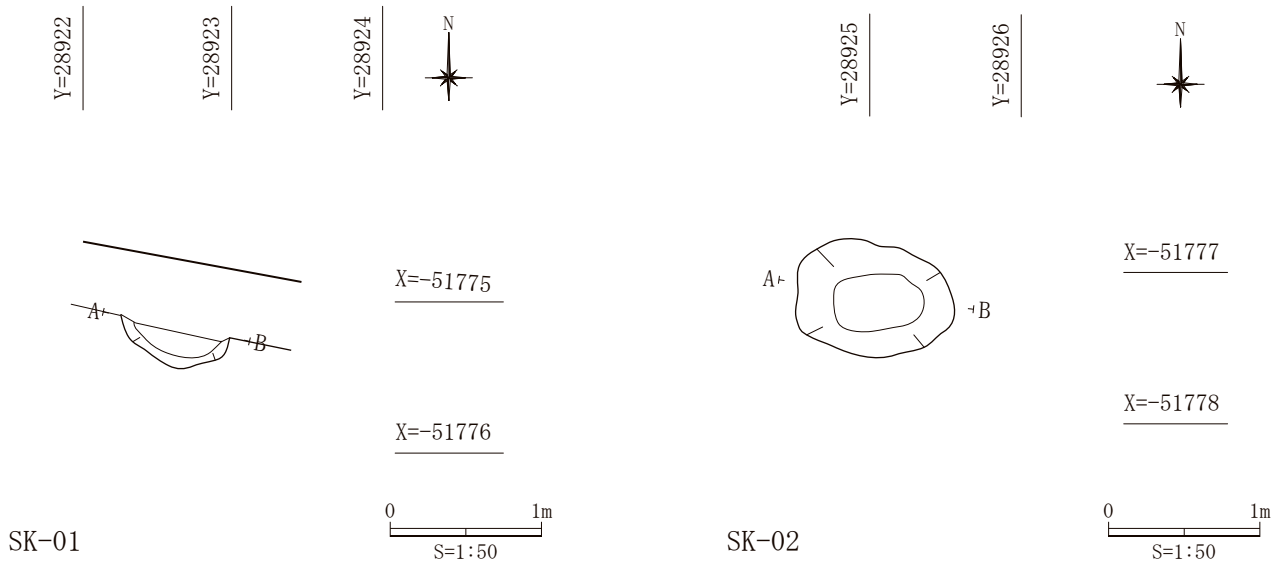
規 模 上端 0.52m ~ 1.28m、下端 0.52m 以上 ~ 1.04m、深さは検出面から 0.08m をはかる。  
 埋 土 自然堆積。A 層に大別する。A 層は黒褐色土を主体とする。  
 壁の状況 外傾して立ち上がる。  
 出土遺物 かわらけ

SK-04 土坑跡 (第 8 図)

位 置 調査区南東側 平面形 不整楕円形 重複関係 なし  
 掘 込 面 削平 検 出 面 黄褐色土シルト層  
 規 模 上端 1.05m ~ 1.70m、下端 0.65m ~ 1.05m、深さは検出面から 0.60m をはかる。  
 埋 土 自然堆積。A 層 ~ I 層に大別し、A 層・G 層・I 層は 2 層に細分する。A 層・F 層は暗色土、  
 B 層・H 層は黄褐色土、C 層は黒褐色土、D 層は褐色土、E 層・G 層はにぶい黄褐色土、I 層は  
 明黄褐色土を主体とする。  
 壁の状況 ほぼ垂直に立ち上がる。  
 出土遺物 かわらけ



第 7 図 SD-01・SD-02 溝跡 平面図・断面図 (1 : 50)



第8图 SK-01~SK-04 土坑迹 平面图·断面图 (1:50)



## SD-01

A 層	黒色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器。カーボン含む。
B 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SD-02

A1層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器。カーボン含む。
A2層	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器。カーボン含む。
B 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

## SK-01

A 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器。カーボン含む。
B 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
D 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SK-02

A1層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器。カーボン含む。
A2層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
B 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SK-03

A 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器を含む。
-----	----------------------------------

## SK-04

A1層	暗褐色土を主体に、にぶい黄橙色土を粒状～塊状に締まりは中。土器。カーボン含む。
A2層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器。カーボン含む。
B 層	黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器を含む。
C 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G1層	にぶい黄橙色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
G2層	にぶい黄橙色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
H 層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
I1層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
I2層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

表2 SD-01・SD-02 SK-01～SK-04 注記一覧表

### P1～P59 柱穴（第9図）

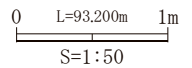
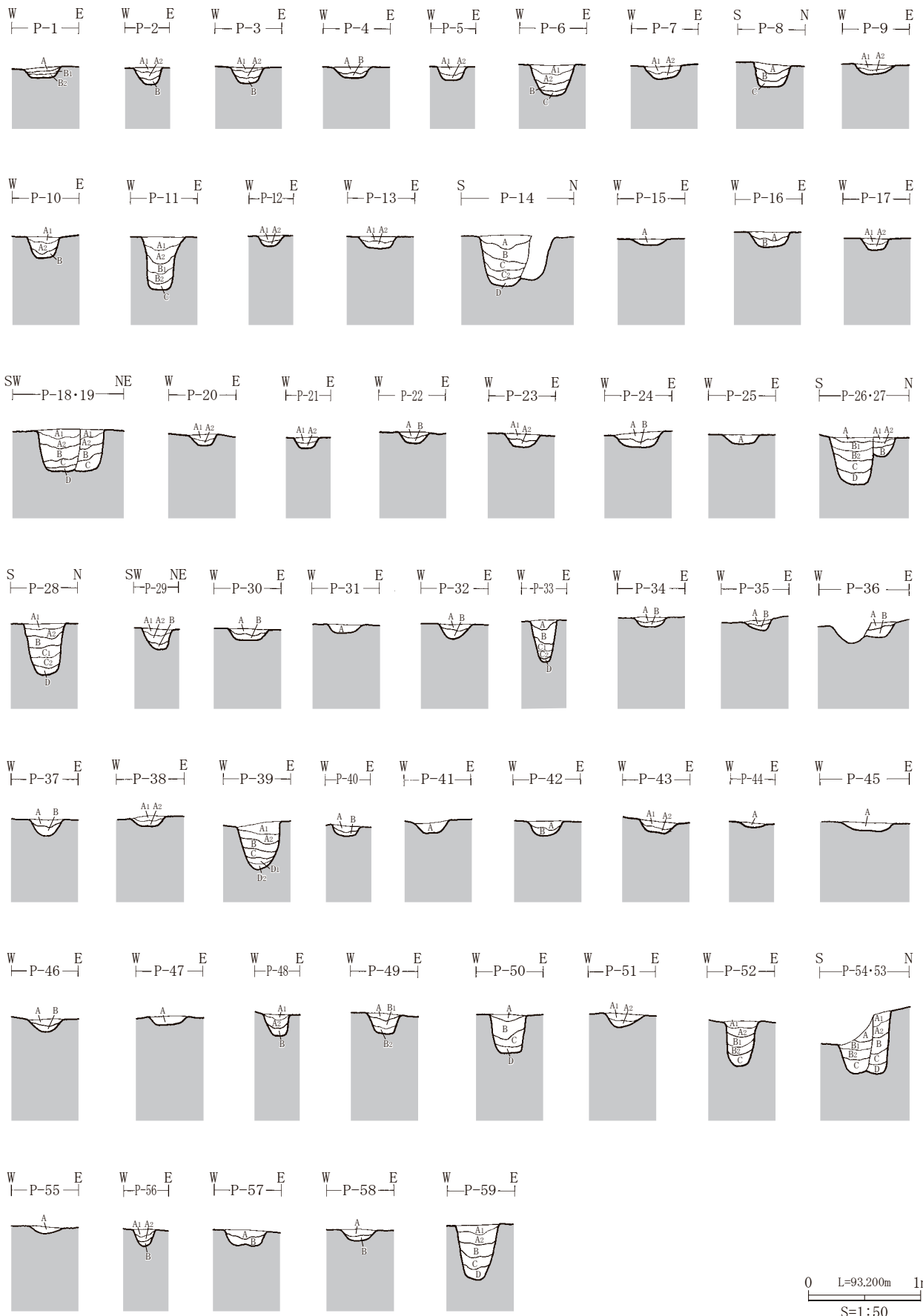
柱穴は59口検出した。その内、明確な柱痕跡を残すものは無かった。埋土は黒褐色土～暗褐色土を主体にするものが多い。各柱穴の幅・深さは次の通りである。

記号	幅 (m)	深さ (m)
P1	0.34	0.11
P2	0.26	0.15
P3	0.31	0.14
P4	0.34	0.11
P5	0.26	0.12
P6	0.41	0.28
P7	0.33	0.12
P8	0.36	0.21
P9	0.36	0.11
P10	0.32	0.22
P11	0.38	0.27
P12	0.24	0.11
P13	0.33	0.11
P14	0.55	0.48
P15	0.31	0.06
P16	0.38	0.13
P17	0.25	0.11
P18	0.41	0.37
P19	0.2以上	0.38
P20	0.26	0.11

記号	幅 (m)	深さ (m)
P21	0.21	0.11
P22	0.28	0.12
P23	0.31	0.12
P24	0.45	0.11
P25	0.33	0.08
P26	0.38	0.41
P27	0.2以上	0.18
P28	0.37	0.45
P29	0.26	0.18
P30	0.35	0.11
P31	0.31	0.08
P32	0.28	0.12
P33	0.22	0.37
P34	0.28	0.09
P35	0.26	0.08
P36	0.2以上	0.13
P37	0.32	0.14
P38	0.31	0.11
P39	0.48	0.42
P40	0.25	0.09

記号	幅 (m)	深さ (m)
P41	0.28	0.09
P42	0.32	0.14
P43	0.33	0.11
P44	0.22	0.05
P45	0.46	0.07
P46	0.32	0.12
P47	0.35	0.08
P48	0.24	0.18
P49	0.31	0.18
P50	0.32	0.34
P51	0.35	0.12
P52	0.32	0.42
P53	0.17以上	0.55
P54	0.32	0.36
P55	0.44	0.06
P56	0.18	0.14
P57	0.37	0.13
P58	0.31	0.08
P59	0.38	0.48

表3 P1～P59 柱穴 規模一覧表



第9图 P1~P59 柱穴 断面图 (1 : 50)

## (2) 出土遺物（第10図～第12図）

今回の調査で、かわらけ・土師質土器がコンテナ4箱、あかやき土器・須恵器・古銭がコンテナ1箱出土した。その内、実測可能な出土遺物47点を掲載した。

### 1) かわらけ・土師質土器

SB-01 (SP-2) から2点。1・2はロクロ成形で、口径は8.1cm～8.2cmをはかる。SB-02 (SP-1) から6点。3・4はロクロ成形で口径は8.0cm～9.0cm、5・7はロクロ成形で口径は11.4cm～13.4cm、6・8は口径14.0～16.7cmをはかる。SB-03 (SP-1) から1点。9はロクロ成形で、口径は13.3cmをはかる。

P-59から2点。10はロクロ成形で、口径は7.7cmをはかる。11は手づくねで、口径は13.9cmをはかる。検出面から9点。12～15はロクロ成形で口径は7.4cm～8.2cm、16・19はロクロ成形で口径は11.8cm～14.0cmをはかり、19は口縁部内外面に煤が付着する。17・18は手づくねで、口径は8.9cm～12.1cmをはかる。20は土師質土器で、口径は13.8cmをはかる。

Ⅲ層から23点。24～34はロクロ成形で、口径は6.8cm～8.0cm、36・38～42はロクロ成形で、口径は11.6cm～12.8cm、37・43はロクロ成形で、口径は14.8cm～15.4cmをはかる。44～46は手づくね成形で、口径は10.7cm～13.8cmをはかる。

### 2) あかやき土器

検出面から2点。21・22はあかやき土器坏である。21は口～体部で口径が13.9cmをはかる。22は口～底部で口径が14.6cmをはかり、回転糸切無調整である。

### 3) 須恵器

検出面から1点。23は須恵器甕である。体部で厚さ1.3cmをはかり、外面タタキ痕が施されている。

### 4) 古銭

Ⅲ層から1点。47は「文久永寶」（1863年文永3年）で書体は草文である。直径2.5cm・厚さ0.1cmをはかる。

## かわらけ・土師質土器

番号	遺跡名	出土位地	機種名	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
1	SB-01 (SP-1)	A 1層	かわらけ	ロクロ	8.1	6.0	1.7	100	口～底部、回転糸切無調整
2	SB-01 (SP-1)	A 1層	かわらけ	ロクロ	8.2	6.0	2.6	25	口～底部、回転糸切無調整
3	SB-02 (SP-1)	C 層	かわらけ	ロクロ	9.0	6.8	2.0	15	口～底部、回転糸切無調整
4	SB-02 (SP-1)	B 層	かわらけ	ロクロ	8.0	6.6	2.0	25	口～底部、回転糸切無調整
5	SB-02 (SP-1)	A 2層	かわらけ	ロクロ	11.4	9.0	2.3	35	口～底部、回転糸切無調整
6	SB-02 (SP-1)	A 2層	かわらけ	ロクロ	14.0	-	-	30	口～体部
7	SB-02 (SP-1)	A 1層	かわらけ	ロクロ	13.4	-	-	30	口～底部
8	SB-02 (SP-1)	A 1層	かわらけ	ロクロ	16.7	-	-	25	口～底部
9	SB-03 (SP-2)	B 層	かわらけ	ロクロ	13.3	-	-	25	口～底部
10	P-59	B 層	かわらけ	ロクロ	7.7	5.6	1.6	55	口～底部、回転糸切無調整
11	P-59	A 2層	かわらけ	手づくね	13.9	-	-	25	口～底部

表4 出土遺物一覧表①

番号	遺跡名	出土位地	機種名	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
12	-	検出面	かわらけ	ロクロ	8.0	5.4	2.0	60	口～底部、回転糸切無調整
13	-	検出面	かわらけ	ロクロ	7.4	6.0	1.5	70	口～底部、回転糸切無調整
14	-	検出面	かわらけ	ロクロ	8.0	6.4	1.7	45	口～底部、回転糸切無調整
15	-	検出面	かわらけ	ロクロ	8.2	6.2	2.1	35	口～底部、回転糸切無調整
16	-	検出面	かわらけ	ロクロ	11.8	6.2	3.3	25	口～底部、回転糸切無調整
17	-	検出面	かわらけ	手づくね	8.9	-	2.4	30	口～底部
18	-	検出面	かわらけ	手づくね	12.1	-	4.0	30	口～体部
19	-	検出面	かわらけ	ロクロ	14.0	-	-	25	口～体部 口縁部煤付着
20	-	検出面	土師質土器	ロクロ	13.8	7.0	4.7	40	口～底部、回転糸切無調整
24	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	7.8	5.6	2.0	95	口～底部、回転糸切無調整
25	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	8.0	6.2	1.9	98	口～底部、回転糸切無調整
26	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	7.6	6.2	2.2	98	口～底部、回転糸切無調整
27	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	8.0	6.6	1.5	55	口～底部、回転糸切無調整
28	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	7.8	5.4	2.3	75	口～底部、回転糸切無調整
29	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	7.1	5.8	1.5	65	口～底部、回転糸切無調整
30	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	7.7	5.8	1.9	30	口～底部、回転糸切無調整
31	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	7.8	6.4	1.7	25	口～底部、回転糸切無調整
32	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	7.6	5.9	1.5	45	口～底部、回転糸切無調整
33	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	6.8	5.1	1.4	30	口～底部、回転糸切無調整
34	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	7.4	6.4	1.2	25	口～底部、回転糸切無調整
35	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	14.4	8.0	4.1	80	口～底部、回転糸切無調整
36	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	12.0	5.6	3.1	90	口～底部、回転糸切無調整
37	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	14.8	10.8	2.8	30	口～底部、回転糸切無調整
38	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	12.1	9.2	2.8	25	口～底部、回転糸切無調整
39	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	11.6	7.2	3.0	30	口～底部、回転糸切無調整
40	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	12.2	7.0	3.3	35	口～底部、回転糸切無調整
41	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	12.8	-	-	25	口～体部
42	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	12.0	-	-	25	口～体部
43	-	Ⅲ層	かわらけ	ロクロ	15.4	-	-	30	口～体部
44	-	Ⅲ層	かわらけ	手づくね	10.7	-	2.8	25	口～底部
45	-	Ⅲ層	かわらけ	手づくね	12.6	-	3.5	25	口～底部
46	-	Ⅲ層	かわらけ	手づくね	13.8	-	4.0	30	口～底部

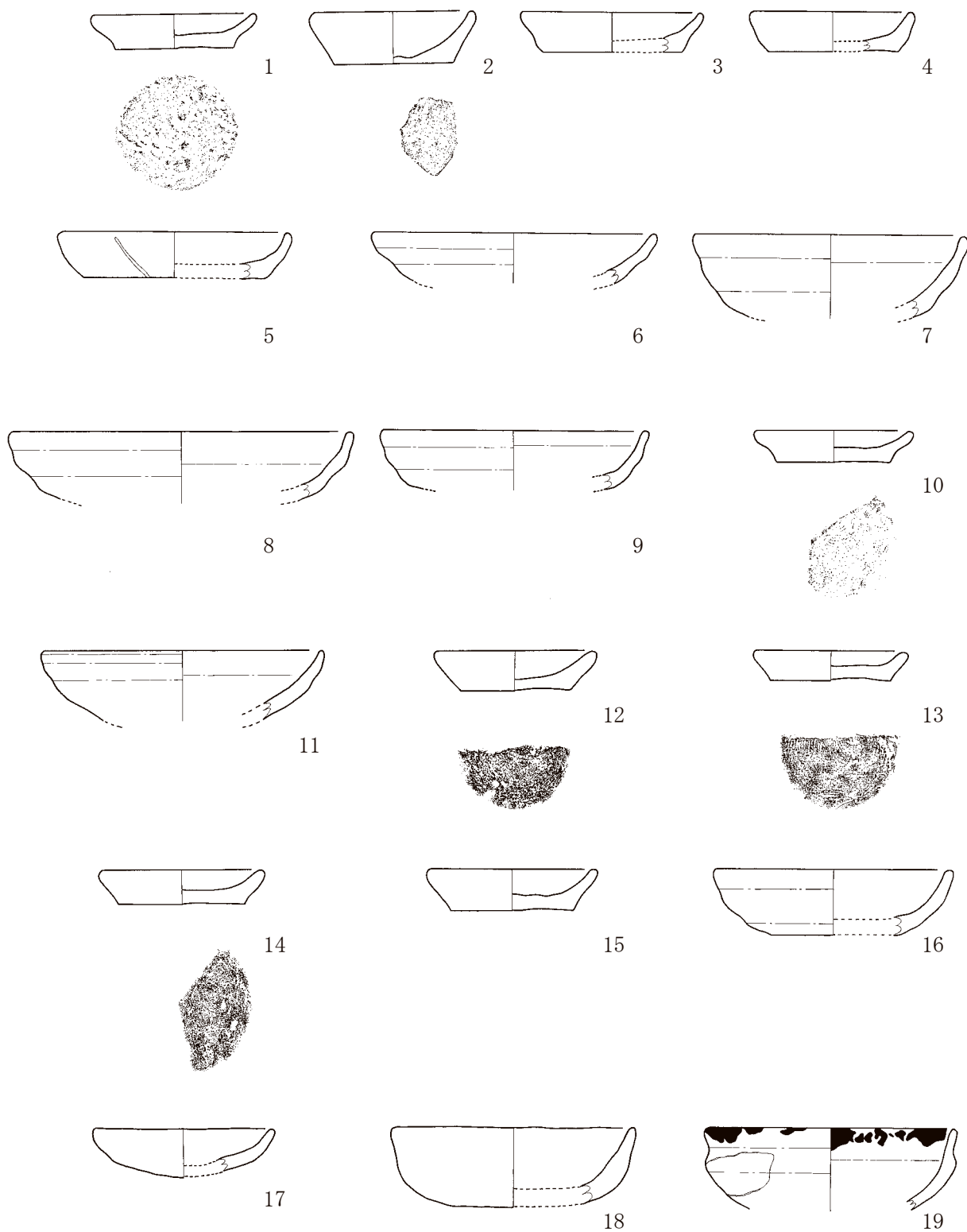
あかやき土器・須恵器

番号	遺跡名	出土位地	機種名	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
21	-	検出面	あかやき土器坏	ロクロ	13.9	-	-	30	口～体部
22	-	検出面	あかやき土器坏	ロクロ	14.6	7.1	4.1	70	口～底部
23	-	検出面	須恵器甕	ロクロ	-	-	-	-	体部、外面タタキ痕

古銭

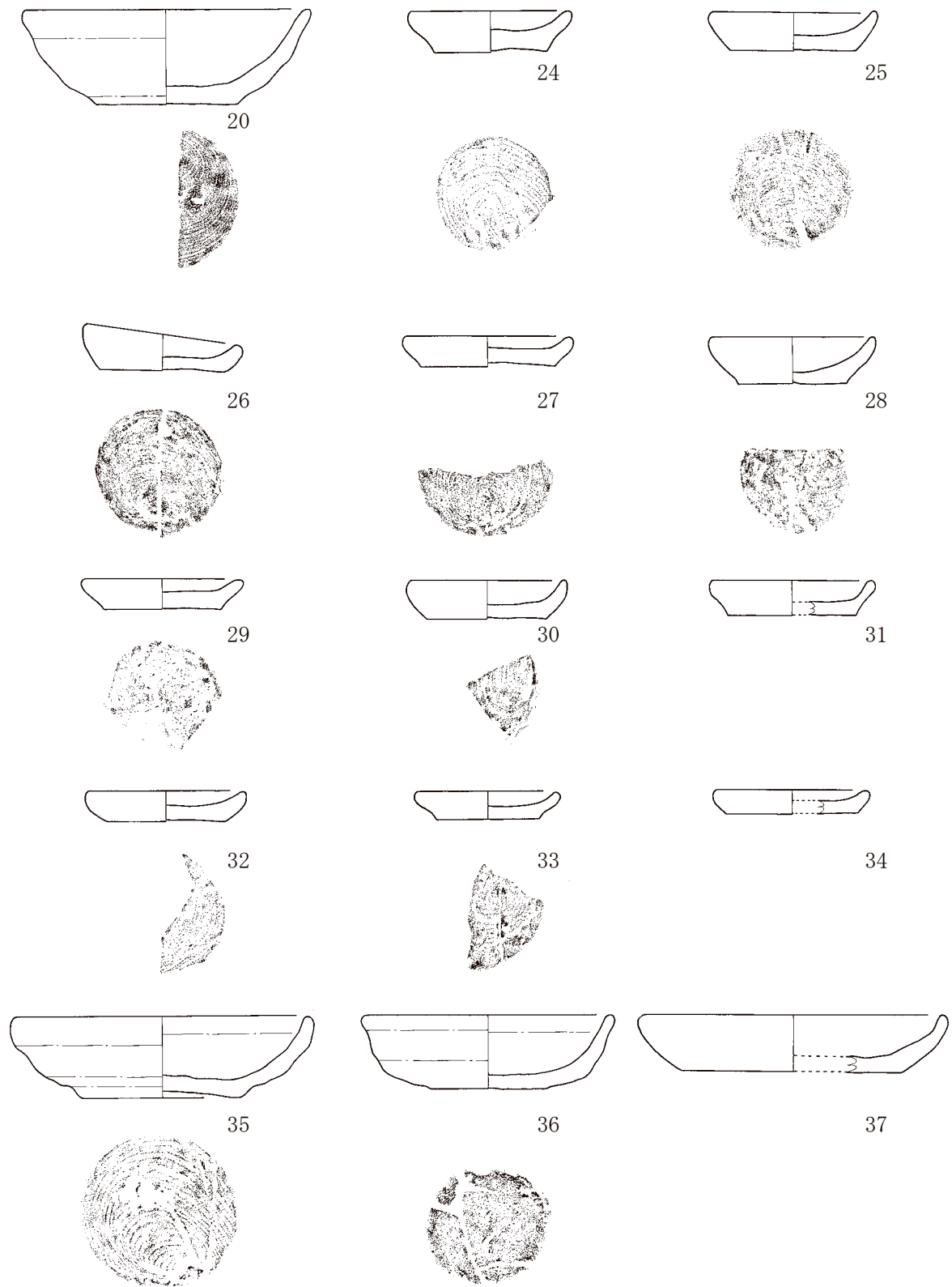
番号	遺跡名	出土位地	機種名	铸造年	径 (cm)	厚さ (cm)	残存率 (%)	備 考
47	-	Ⅲ層	文久永寶	1863	2.5	0.1	100	銅銭 書体-草文

表5 出土遺物一覧表②



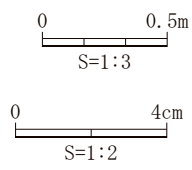
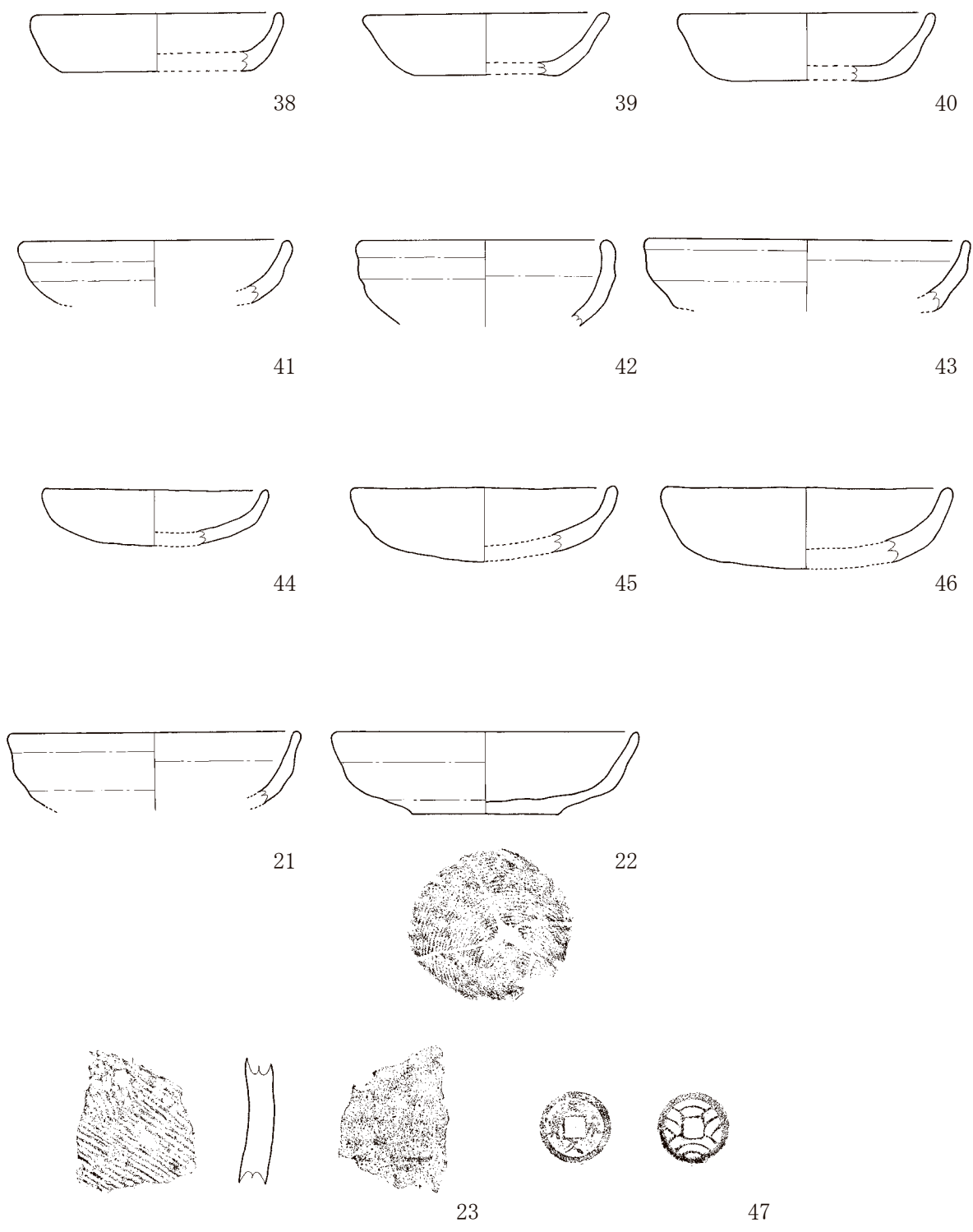
0 0.5m  
S=1:3

第10図 出土遺物① (1:3)



0 0.5m  
S=1:3

第11図 出土遺物② (1:3)



第12図 出土遺物③ (1:3 古銭1:2)



## 4 まとめ

南日詰大銀Ⅰ遺跡 第1次調査では、掘立柱建物跡3棟、溝跡2条、土坑跡4基、柱穴59口の遺構を検出した。遺物は、かわらけ・土師質土器・あかやき土器・須恵器・古銭など中コンテナで5箱出土した。

### ・掘立柱建物跡

掘立柱建物跡の軸方向で分類すると、SB-01・SB-03（N18° E・N20° Eの傾きを持つ）、SB-02は（N12° Eの傾きを持つ）の2期に分けられる。また、SB-01・SB-03には庇もしくは縁が附属する建物になる可能性が考えられるが、詳細は不明である。時期は、柱穴の埋土からかわらけを含むことから、中世（12世紀）に属すると推測する。

### ・溝跡

SD-01の深さは0.12mをはかり、後世の削平により、溝跡の両端部が途切れている。埋土上層に微細かわらけが混入する。SD-02の深さは0.35mをはかる。時期は、溝跡埋土の上層～中層にかわらけを含むことから、いずれも中世（12世紀）に属すると推測する。

### ・土坑跡

SK-01は不整形、SK-02～SK-04は不整楕円形を形状とする。時期は、埋土上層～中層にかわらけを含むことから、いずれも中世（12世紀）に属すると推測する。

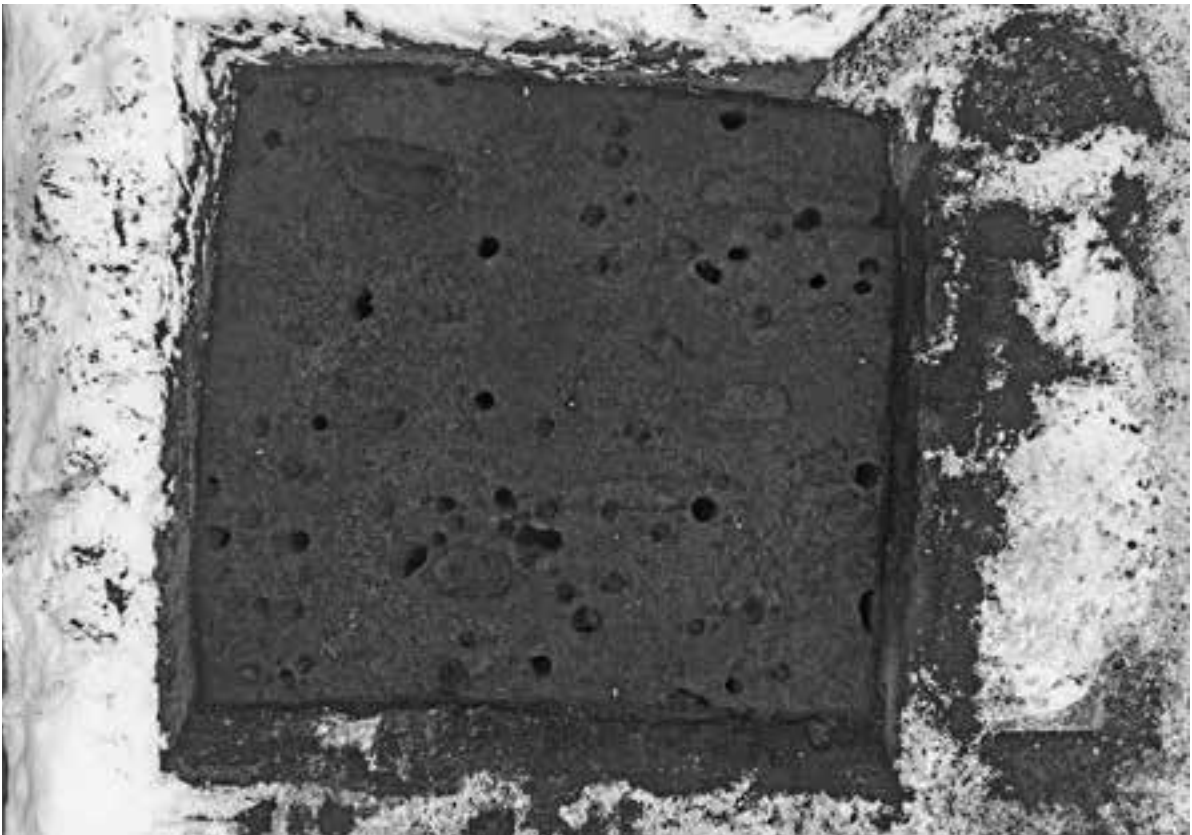
本遺跡の南側には、南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡が所在し、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター発掘調査〔(財)岩手埋文2011〕の報告書で、古代～中世（12世紀）の遺構・遺物が面的に分布している事が明らかになった。また、東側には南日詰大銀Ⅱ遺跡が所在し、平成27年～平成29年紫波町教育委員会〔紫教委2019〕の報告書で大型四面庇掘立柱建物跡や門跡（棟門）など中世（12世紀）の遺構・遺物など発見され、北上川縁辺まで比爪に関連する「都市」としての範囲が広がることが確認されている。本遺跡も狭い調査区ではあったが、かわらけ（12世紀）が多く出土することから、比爪に関連する遺跡と推測する。今後の調査に期待したい。

《引用・参考文献》

- 1972 紫波町 「紫波町史」第1巻
- 1992 紫波町教育委員会 「比爪館 -第9・10次発掘調査報告書-」
- 2011 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
「南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書 -経営体育成基盤整備事業南日詰地区関連遺跡発掘調査-」
- 2011 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
「下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書 -経営体育成基盤整備事業南日詰地区関連遺跡発掘調査-」
- 2010 羽柴直人 「東日本初期武家政権の考古学的研究 -平泉勢力圏の位置付けを中心に-」
- 2013 紫波町教育委員会 「比爪館跡 -第30次発掘調査報告書-」
- 2015 紫波町教育委員会 「比爪館跡 -第31・32次発掘調査報告書-」
- 2019 紫波町教育委員会 「南日詰大銀Ⅱ遺跡 -第1次～第3次発掘調査報告書-」

# 写真図版





第1図版 南日詰大銀I遺跡 調査区空撮



調査区 全景② (北側から)



調査区 全景③ (東側から)



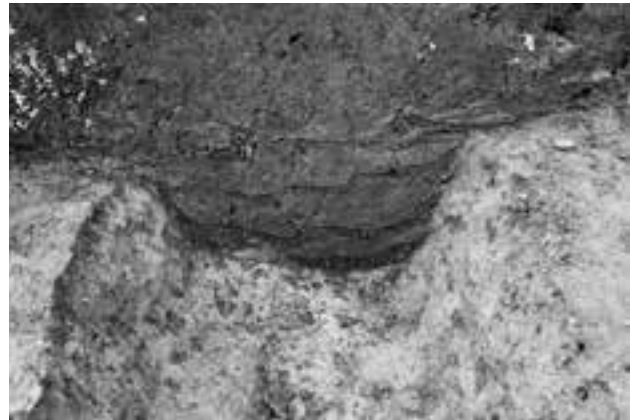
SD-01 溝跡



SD-01 溝跡断面



SD-02 溝跡



SD-02 溝跡断面



SK-01 土坑跡



SK-01 土坑跡断面



SK-02 土坑跡



SK-02 土坑跡断面



SK-03 土坑跡



SK-03 土坑跡断面





1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



37



38



39



40



41



35



36



42



43



44



45



46



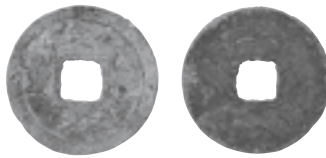
21



22



23



47



# 抄 録

ふりがな	みなみひづめだいぎんいちいせき だいいちじはくつちようさほうこくしょ							
書名	南日詰大銀Ⅰ遺跡 ー第1次発掘調査報告書ー							
副書名								
巻次								
シリーズ名	紫波町埋蔵文化財調査報告書2021							
シリーズ番号								
編集者名	鈴木賢治							
編集機関	紫波町教育委員会							
所在地	岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1							
発刊年月日	令和4年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みなみひづめ 南日詰 だいぎんいちいせき 大銀Ⅰ遺跡 だいいちじちようさ 第1次調査	いわてけんしわぐん 岩手県紫波郡 しわちやうみなみひづめ 紫波町南日詰 あざしやうじくちちない 字小路口 地内		LE77-1101	39° 53′ 33″	141° 16′ 5198″	R2.12.11 ～ R2.12.22	79.2㎡	個人住宅新築工事に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
みなみひづめ 南日詰 だいぎんいちいせき 大銀Ⅰ遺跡 だいいちじちようさ 第1次調査	さんぶち 散布地	へいあんじだい 平安時代  ちゆう 中世	ほったてはしらたてもにあと 掘立柱建物跡 どこう 土坑 あと跡 みぞ 溝 ちゆう 柱	かわらけ はじしつどき 土師質土器 あかやきどき あかやき土器 すえき 須恵器 こせん 古銭	あづまかみけいさい 吾妻鏡掲載 おうしやうふじわらかんれんいせき 奥州藤原関連遺跡			

---

---

# 南日詰大銀 I 遺跡

— 第一次発掘調査報告書 —

---

令和4年3月

編集・発行 紫波町教育委員会  
〒028-3392 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1  
TEL 019-672-2111(代) FAX 019-672-1553

印刷 杜陵高速印刷株式会社  
〒020-0811 岩手県盛岡市川目町23番2号 盛岡中央工業団地  
TEL 019-651-2110 FAX 019-654-1084

---

---